

# 東洋医療を考える会 会報

発行元:NPO 法人 東洋医療を考える会  
住所 渋谷区代々木2-39-7 メゾン代々木 201号  
TEL 03-3375-6151 / FAX 03-3299-5275  
メール [iryō-kangaeru@waltz.ocn.ne.jp](mailto:iryō-kangaeru@waltz.ocn.ne.jp)  
ホームページ <http://npo-iryō.org/>



## 秋のリクリエーションのご案内 牧野富太郎記念庭園

この庭園は牧野富太郎氏が1926年（大正15年）から人生の終わりまでの30年余りを過ごした住居と庭の跡地です。

庭は富太郎氏のゆかりの深い300種類あまりの草木類を鑑賞できます。また、記念館では氏が愛用した道具や著作などを展示しています。是非みなさまご参加ください



日時 10月15日(日)

所在地 東京都練馬区大泉6-34-4

交通 西部池袋線大泉学園駅南口より徒歩5分

集合 牧野記念庭園門前 10時30分  
昼食懇談会場 ビストロ シューベル

# 秋口を健康に暮らすために

田中 榮子

## 異常気象続く

今年の夏は、世界各地で熱波におそわれたり、山火事など甚大な被害が発生しました。

日本でも、災害級の猛暑が続き、つらいときがありますね。

国連グレーテル事務総長は「世界の温暖化時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来しました。また、異常気象が新たな日常になりつつあります。」と述べています。

この異常気象を分析する国際研究グループは、北米や欧州、中国での7月の熱波は、人間の活動が引き起こした気象変動に伴う異常気象だと報告しています。

## 秋口の健康上の注意点

### 1 残暑による諸症状

身体中に汚れた血液や古い水分が停滞して起こるか症状。

(疲れる、だるい、眠気、食欲不振、胃もたれ、不眠、イライラ、頭痛、めまい、視力障害、意欲低下、などなど)

### 2 気象について正確な情報をいつも把握しておく、

毎日、体が対応できるように持っていく。生活法の新たな工夫を。

### 3 十分な休養と睡眠をとる。

からだ中の疲労物質を減らしていくには、まず休養、入浴法も。

### 4 適度な運動。

自分のからだに聞きながら、からだを動かすことは、きれいな血液が行き渡るようにする一方法。

呼吸法を入れながらリラックスして行う。

### 5 食養生。 旬の物を腹八分目とる。

秋が深まってくると朝、夕冷えないように、からだを温めるものを適度にとる。からだの陰（冷やす）、陽（温める）をわきまえ、野菜なら、陽性な根菜類を利用、温める味噌料理も取り入れたり。

### 6 マッサージの応用

その人に応じて行うと疲労回復に効果的。穴としては、足三里、三陰交 太谿など、

これからも台風や気候変動に対応して、健康に季節を楽しんでいきましょう。



(立川、昭和記念講演 9月24日)

# 灼熱の8月11日

## 小栗上野介の墓参りに東善寺へ

山西 俊夫

会社が夏休みに入った翌日、長年の懸案だった小栗上野介忠順のお墓参りに、群馬県高崎市倉渕町権田にある東善寺に息子を誘って訪ねました。事前に会社の管理課長（女性）から、高崎駅からのバスの乗り継ぎだと大変だし、山の中だから、長野新幹線 安中榛名駅からタクシーで行った方が良い、駅前は何もないからあらかじめタクシーを予約しておいた方が良い、こんなに暑い時でなく10月の休みに行ったらとアドバイスされたが、東善寺に前日電話を入れて村上泰賢住職から概要の説明を受け、さらにホームページを検索して予備知識を頭に入れて出かけました。

AM10:51に安中榛名駅に到着、駅前のタクシー乗り場に榛名観光タクシーの運転手さんが出迎えてくれていました。確かに緑が濃い高原の駅前には他にタクシーが待っているわけでもなく、食堂らしき建物は一つも見当たりませんでした。前日、駅に電話しましたが通じませんでした・・・

まさか無人駅ではないだろう？ 倉渕町で育ったという運転手さんと談笑しながら約20分、途中行き交う車も無く目指す東善寺に着きました。タクシー料金5,730円。山に囲まれた街道406と烏川上流に沿って民家が少々点在していますが、山を背後にしたいくぶん坂を上がった場所に予想より大きく立派な東善寺が見えました。

正面玄関横のブザーを押すと、受付の窓が開いて村上泰賢住職自ら顔を出されて、お墓、遺品所、本堂の展示品の拝観に30分、住職自らの講話に1時間半、計2時間かかるとの説明を受けました。料金は拝観と講和料合わせてグループで5,000円（1~10人の場合）。

緑豊かな松の下で、前には黒椿を眼にしながらか、幼少時はわんぱく小僧だったといわれる小栗上野介の額の広い聡明さを漂わせた穏やかな眼差しの胸像が、堪能な仏語でフランス側と斡旋し幕末に、日本産業革命の礎となる横須賀造船所建設で上野介を助けた盟友、栗本鋤雲のこやかな爺顔の胸像と並んで立っていました。

明治の父と呼ばれた幕府官僚の天才像に頭を垂れながら、下記のことを思いをはせました。「たとえ徳川の運命に限りはあっても日本の運命に限りは無い」と言って、1860年、日米通商条約の国書交換の遣米施設目付で渡った米国での見聞を基に、日本の近代化（横須賀造船所建設、仏語伝習所、日本初の株式会社兵庫商社の設立、仏式軍隊の導入訓練、滝野川反射炉による大砲製造、築地ホテルの建設、ガス灯・郵便制度・鉄道・新聞発行を提唱、中央銀行・商工会議所・金札発行など金融経済の立て直し提唱、郡県制度の提唱、森林保護の提唱）（日本近代化の父 小栗上野介 しおりより引用）を成し遂げ、大隈重信をして『明治政府の政策は小栗の政策の模倣に過ぎない』と言わしめた偉人が、若し彼の実力を恐れた西軍によって家臣とともに斬首されていなければ、若し小栗上野介が実施しようとした郡県制を採り、優秀な徳川官僚群がそれぞれの分を果たしていけば、我が国が長州・薩摩の創った軍国主義国

家ではなく、スイスや北欧諸国に類似した独自の立憲国家に変貌した可能性は十分にあり決して空論ではない（「明治維新という過ち」原田伊織氏著 180 ページより引用）。

住職の村上泰賢氏の講話「横須賀造船所の価値と小栗上野介」は写真を説明しながら途切れることなく朗々と続けました。八十三才にしてがっちりとした体格で色つやよく教職、山岳で鍛えられた師の目標は、教科書で「小栗上野介の人物と業績」「横須賀造船所の価値と意義」を教える＝近代日本の歴史を正しく理解することだそうです。目標を掲げて実践する師の姿が小栗上野介の生きざまと重なって見えました。

師の健康維持の秘訣をお聞きしたいものです。

事前に想像していたより遥かに豊富で充実した写真、文献資料には目を見張るものがありました。西軍に捕縛され烏川で主従四人斬首された（享年四十二）が、西軍は小栗の遺品をほとんど持ち去り、高崎で軍資金用に転売したといえます。

薩長史観が現在も続いており、勝者によって塗り固められた近代日本の歴史上、教科書に載る事のない小栗上野介の業績に直接触れることができたのは衝撃でした。

男子用洗面所に、ワシントンへの使節団一行が当時初めて経験したであろう水洗トイレを、ものめずらしげに囲って触っている漫画が貼られていましたが、これもコミカルですが重要な資料だと可笑しくなりました。

最後に、後世に残る小栗上野介記念館の建設に賛同してささやかですが2口募金させて頂きました（1口1万円）。

帰りは、バスを乗り継いで1時間10分ほどかけて高崎駅に無事たどり着きました。

群馬ならず日本の宝である、『覚悟と実行の人 小栗上野介』という偉大な先輩のことを、一人でも多くの人（特に若者）に知ってもらうために東善寺拝観を奨励したいのですが、なにせ山間地で交通が不便なため、観光バスツアーで行けるようにしたいものです。

順序が逆になりましたが、何故私が小栗上野介に興味をもつようになったのでしょうか？

23年前に仕事の関係で平日は渋川市に滞在するようになったのですが、住まいの近くに偶然、「小栗上野介 日記、家計簿」と書かれた石碑が個人の家の前に建てられているのを眼にしたのが発端です。小栗上野介って誰？と言うのがその時の率直な印象でした。

当時、私自身東洋医療を受診していたこと、NPO「東洋医療を考える会」のお手伝いをしていたことを通じて、会の高橋養蔵先生から幕末から明治初期の東洋と西洋医療の論争の本を贈られて読んだ中に、小栗上野介と大久保利通両者の御内儀がともに婦人病を患った時に、漢方医療で快復したことが書かれていた。現在、その名著が行方不明になって手元に見つからないのが残念です。

我が国固有の文化とっていい伝統医療が、現在まで医療類似行為としか認められておらず、健康保険の対象外となっているのはあまりに不合理ではないか。ひょっとして、東洋医療もまた小栗上野介と同じく明治維新の過ちによる被害者なのではないか？

そして、小栗自身、幕末から明治にかけて活躍した漢方医である浅田宗伯が主治医だったことを知りました。

宗伯のカルテ『橘窓書影』に、患者・小栗上野介の名前が見えるのは文久三年、一八六三年（三十七

歳) のことである。上野介は風邪をこじらせ、現代医学でいうところの敗血症性ショックの重態に陥った。複数の医師の治療を受けたが良ならず、最終的に宗伯の診察を受けて全快した。この一件がきっかけとなり、宗伯は上野介に深く信頼されるようになったと思われる。(小栗上野介顕彰会機関誌 たつなみ 第43号 57ページ小栗上野介の治療 津田篤太郎氏 寄稿文より引用)

小栗が、必ず勝つと慶応四年正月慶喜に薩長の討伐を進言し、勝安房と政見を異にして容れられず、十五代将軍徳川慶喜から罷免されて(慶応4年、1868年1月)から江戸を離れるまで四十三日、この間浅田宗伯が三度、宗伯だけでなく宗伯の婿の宗叔も二度訪ねてきている。(覚悟の人 小栗上野介忠順伝 佐藤雅美氏著 419ページより引用)

明治七年、新政府は医制を定め、西洋医学のみを正当な医学と認め、教育制度や医事行政から漢方医学を事実上追放してしまったために、漢方医学は著しく衰えることとなった。

「滅びる側」の医学を最後まで、懸命に支えた人物が浅田宗伯であり、多忙な臨床の傍ら、膨大な著作を残し多くの弟子を育てた。

昭和に入って、漢方が再興することになったのはこれら宗伯の遺産に追うところが大きく、「漢方界最後の巨匠」と呼ばれるゆえんである。(小栗上野介顕彰会機関誌 たつなみ 第43号 小栗上野介の病歴一浅田宗伯『橘窓書影』より一 津田篤太郎氏 寄稿文 56ページより引用)

若し、彼が生きながらえていれば、明治維新以来の我が国の性急な富国強兵政策による極端な欧化主義政策が、我が国固有の伝統医学を追放した愚かさを犯すことにはならなかったであろうと考えます。

次は9月に横須賀造船所跡地である横須賀軍港めぐりをして小栗上野介の偉業に思いを巡らしたいと思います。

2023年8月16日 山西 俊夫

## 岸イヨさんが逝去されました

「鍼灸マッサージを健康保険で安心して受けられるように」と私たちの運動の出発点となった患者さん、岸イヨさんが9月10日亡くなりました。

88歳でした。

岸さんは宇都宮の鍼灸師、中川節さんの患者さんで、東洋医学を健康保険で受けられるように、と1991年8月裁判に訴えられました。

口頭弁論は21回開かれ、私たちはこの公判に7年間、毎回かけつけ応援してきました。

故、岸さんへ心より悔やみ申し上げます。私たちは岸さんの願いが実現できますように、身を引き締めて力を合わせて行きたいと思います。

2023年9月21日 田中 榮子